

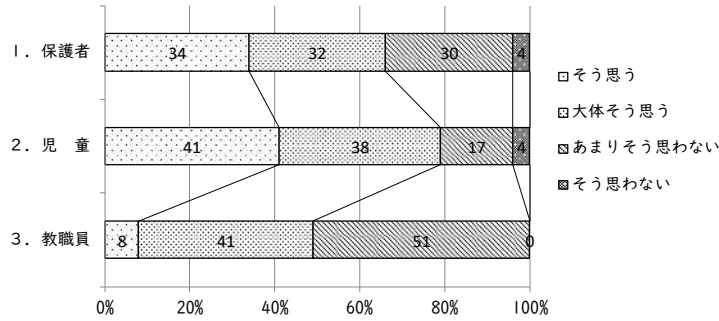


令和7年度 伏見南浜小学校
第2回学校評価
アンケート結果と考察
～生活面～

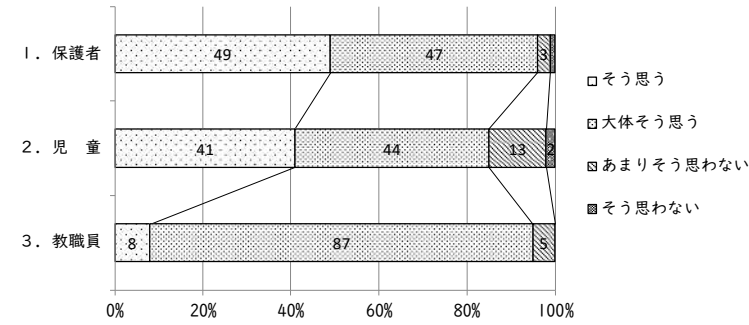
第2回 学校評価アンケート結果について

本年度の第2回目の学校評価アンケートは、本年度、第1回に行ったアンケートと同じ内容でアンケートを実施しました。前回の結果と変化した箇所を中心に記述をさせていただきました。
また、自由記述欄では、「お子さんに身につけてほしい力」「そのためにご家庭で取り組まれていること」について、ご意見を伺いました。

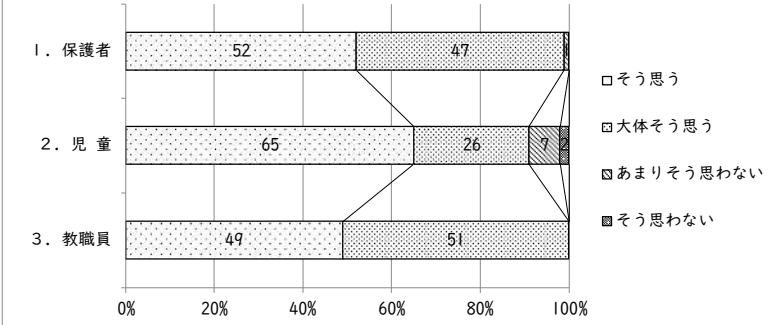
- ① 1. 我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。
2. じぶんからすすんで、あいさつをしている。
3. 子どもが自分から進んであいさつできていると思う。



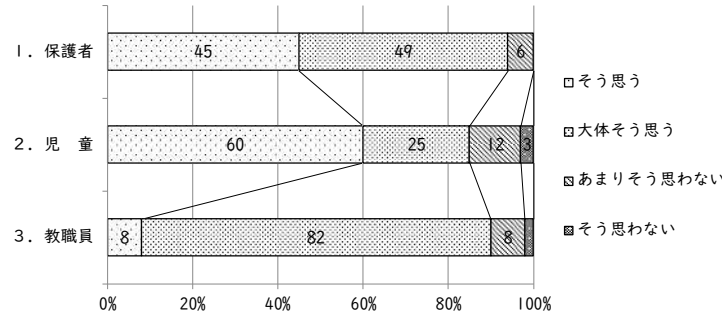
- ② 1. 我が家では、子どもに、自分の気持ちを言葉で伝えるように促している。
2. じぶんのきもちをあいてにわかるように、ことばでつたえることができている。



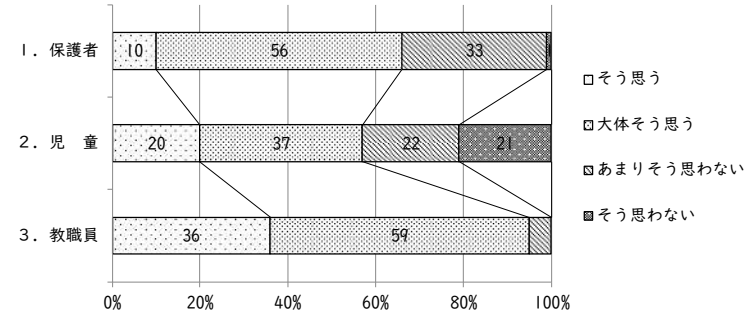
- ③ 1. 我が家では、子どものよさを認め、ほめる努力をしている。
2. おうちでは、がんばったことをほめてもらえる。
3. 子どものよさを認め、ほめている。



- ④ 1. 我が家では、子どもの交友関係を把握している。
2. おうちでは、ともだちのことをよくはなしている。
3. 子どもの交友関係を把握している。



- ⑤ 1. 我が家では、丁寧な言葉で子どもと会話をしている。
2. おうちでは、ていねいなことばでおはなしをしている。
3. 丁寧な言葉で子どもや保護者と話している。



学校教育目標として、

「自ら人とつながり 学びとつながる力の育成」

を掲げております。

ICTやデジタルを有効活用しながら、人との関わりや繋がり

も

大切にし、大きく成長してほしいと考えております。



1. 生活面

①「あいさつ」は、本校が掲げている『伏見南浜小学校のみんなで大切にしたい4つの【あ】「あいさつ」「あさごはん」「あんぜん」「ありがとう』の一つです。「我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている」というアンケート項目に対し、本年度第1回目のアンケートに比べ保護者の方からの回答が「そう思う」「だいたいそう思う」が88%から66%に大幅に減少しました。児童の回答からも「自分からすすんであいさつをしている」と答えた児童が84%から79%へと減少が見られました。教職員の回答からも「子どもが進んであいさつができていくと思う」という項目に対し76%から49%へと大幅に減少しています。子ども達には、朝会で、学年で学級ごとあいさつの大切さを伝えてきています。あいさつの大切さを子ども達と再度話し合い、あいさつをされた時、した時の嬉しさや心地よさを話し合っていきたいと思います。あいさつのできない児童の中には「自信がない」「恥かしい」「あいさつをしても返してもらえなかったらと不安」といった声がきかれました。そういった子ども達も安心してあいさつができる環境を子ども達とともに考え整えていきたいと思っています。②「気持ちを伝える」については、児童・保護者の方の捉え方と教職員との捉え方に少し差が見られました。教職員は、クラス全体・学校全体の児童をみて評価しているので、少数でも気持ちを伝えることに課題がある児童が見られた場合、「そう思う」と全ての児童を肯定する回答はしにくいためだと思われます。また、保護者の方の「気持ちを伝える」ことが大切と感じ、そうするよう促しておられる実態とは少し異なり、まだまだ十分に気持ちを伝えきれていない、と感じている児童が15%存在する結果となっていました。自分の思いや考えを表現する力は、それが求められている現代において、必要不可欠な力であると考えられています。一人一人の子どもたちが、臆することなく自分の思い・考えを主張できるよう、子どもたちの自己肯定感を高めるとともに、日々の学習において、思いや考えを表現する機会をより多く設定していきたいと考えております。

③お子さんのよさを認め、ほめているかをお聞きしたアンケートですが、保護者の方や教職員がお子さんに対してそう感じているよりも、「ほめてもらえている」と感じている子どもたちが多いという結果になりました。その反面、「あまりそう思わない・そう思わない」と感じている子たちも割程度見られます。「人に褒められたい、認めてもらいたい」という承認欲求は、「他者から称賛されたい」という欲求と「他者の評価から自立し、自分を承認できる」という欲求に分かれるそうです。前者の欲求が満たされていないと後者の欲求を満たすことは、なかなかできません。自己肯定感が高まると何事にも積極的に取り組むことができる、また、失敗してもその失敗を生かして、次の挑戦に進みやすいなどと言われていいます。学校でも引き続き保護者の皆様と協力して、子どもたちのよさを見つけ、それを認め、伝えていきたいと思っています。

⑤今回の学校アンケートのうち、「丁寧な言葉で話しているか」の項目について、児童では43%、保護者では34%が『あまりそう思わない・思わない』と回答しました。この結果から、日常の言葉遣いにおいて、相手を思いやる気持ちをより一層育んでいく必要があることが分かりました。言葉は、人と人との関わりをつくる大切なものです。丁寧な言葉で話すことは、相手への敬意や優しさを表す大事な姿勢でもあります。今後も学校として、児童が互いに気持ちよく過ごせるよう、言葉の大切さを理解し、相手を思いやる心を育てる指導を継続していきま